

フリースタイルな 僧侶たちの フリーマガジン

2011/12・2012/1

Vol.14

Japan

since 2009.8

Special

「宿坊研究会」が「フリスト」をジャックする!?



フリースタイルな行者の「精進生活」
「寺社コン」レポート!・イベントインフォ ETC

<http://freemonk.net>

「宿坊研究会」が「フリスト」をジャックする!?



このお寺がすごい！

Q. 宿坊って何？

A. お寺や神社が運営している宿泊施設です

Q. 宿坊研究会って何してるんですか？

A. 宿坊に泊まったり、裏の裏まで見つめたりしています

寺社コン！

Q. 宿坊にはお坊さん以外の人でも泊まることができるの？
対談！

宿坊にはお坊さん以外の人でも泊まることができるのでしょうか？

宿坊について、これは私が最も良く聞かれる質問の一つです。

答えは「〇」です。いろいろな定義がありますが、大雑把に言えば一般の人が泊まれるお寺や神社の宿であれば、それは「宿坊」と私は呼んでいます。

私は二〇〇〇年から宿坊の泊まり歩きを開始し、三千件以上の寺社を巡り、日本全国、そして韓国のお寺も含めて約八十軒の宿坊に泊まりました。

宿坊では一般の観光では見られない建築や庭園、仏像を拝観し、早朝や日が暮れた後の伽藍風景に息を呑むなど、その楽しさを知ってからはやめられなくなっています。

歴史が積みもり、多くの未知が隠された宿坊は、まさにびっくり箱！

そして見て楽しむだけでなく、お寺や神社ならではの修行体験に参加できるのも楽しみの一つです。

私は座禅（坐禅）を行っていると、いつも時間が流れていく歯がゆさを感じます。お坊さんではない私には、座禅を通

して無になることなどできません。

代わりに感じるのは時間の大切さ。何もせずに身体の動きを止めることで、日常生活では気がつかなかった時間の動きが肌の上をつたっていきます。

写経からは心の動きの奔放さが知りました。心の揺らぎがすぐに文字に現れる写経は、心が決して意のままに動くわけではないことを確認する指標です。

朝のお勤めは、お寺の素顔を最も良く見ることができるといなからうと行われる勤行は、お坊さんたちの毎日が仏様と向き合うことで成り立っていることを教えてくれます。

お坊さんたちは見えないところで、常に読経を繰り返しています。宿坊で見えるものは私にとつては非日常ですが、お坊さんの日常から得られる気付きはかけがえのないものばかりです。

繰り返される日常の大切さ。そして挑戦から生まれる新たな歴史。「フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン」今号では、宿坊のそんな魅力をたっぷりとお届けいたします。



右・打ち合わせする池口と堀内さん
左・宿坊研究会代表 堀内克彦さん



堀内克彦：宿坊研究会代表。「人生を変える寺社巡り」がテーマの寺社旅研究者。二〇〇〇年から始めた宿坊研究会はアクセスが急増し、宿坊旅行に火をつけたパイオニア。座禅や写経などの修業体験を分かりやすく伝え、多くのお寺を盛り上げた実績を持つ。著書に『宿坊に泊まる(小学館文庫)』『お寺に泊まろう(ブクマン社)』『恋に効く! えんむすびお守りと名所(山と溪谷社)』など。

大陽寺宿坊の軌跡

～5年で生まれ変わったお寺のおはなし～



埼玉県秩父山中にある霊場・大陽寺。「天空の寺」「大自然に囲まれた休日」などとの評価から、お寺好きのみならず、多忙な生活に追われるOLやサラリーマンが、こぞってこの携帯の電波が届かぬ宿坊に足を運んでいる。

日本でも指折りの広さの座禅堂では皆が真剣に座禅を組み、手作りの精進料理には地元の素材が卓を彩る。ヨガ教室やオーボエのコンサートが企画され、禅の盛んなドイツやフランスからも宿泊者が訪れる。

日本経済新聞の『初心者にお勧めの宿坊』ランキングでは、数ある伝統の宿坊を抑えて堂々の一位。メディアにも多数取り上げられ、その立地や住職の人柄などから、都会の喧騒を離れた癒しの宿としての地位を確立している。

しかしこの半径五キロ以内に人家のない山寺に宿坊が生まれ、今のようにひっきりなしに宿泊客が訪れるまでには多くの苦労と困難があった。それを乗り越え、大陽寺の新たな歴史を切り開いたのは、全てこの宿坊の主である浅見宗達住職の情熱に他ならない。

大陽寺はもともと鎌倉時代末期(一二三三)に開山された古刹で、江戸時代には山岳寺院としては珍しく女性の立ち入りが認められたことから、多くの参拝者で賑わった。しかし明治以降、時代の変遷と共に人足は遠ざかる。檀家は三十軒しかなく、

お葬式は年に数件ほど。参拝者の影もなく、先代の祖父から後継ぎ話が出た時、浅見住職は「これでは食べていけないはずがない」と一度は断ったという。人里からは距離があり、交通の便も悪い。生活の基盤すら見出せないこのお寺をなぜ継ぐことにしたのか?そう問いを投げかけると、浅見住職は笑って答えた。

「大陽寺はもともと私にとつて、怖い場所だったんです。子供の頃から悪さをすると、大陽寺に連れていくぞと怒られたほどでした。しかし大人になつて十年以上も足が遠のいていた頃、思いつきで大陽寺に登り、心境が一変してしまつたんです」

お寺を継ぐつもりなど全くなかつたため、祖父がいない時を見計らつて大陽寺に足を運んでみた。ほんの軽い気持ちだったのだという。しかし日のあたる縁側に一人で座っていると、ずつとここにいたいなという想いが頭に浮かんだ。サラリーマンとしての安定した日々、大きな問題を抱えていたわけではない。ただこのお寺や風景が忘れられていくのは惜しい。何とか生かしていけないのか。そんな気持ちになつたのだと語ってくれた。

実際に境内に足を踏み入れると、大陽寺は山の斜面に沿つて建てられていることがわかる。お寺の周りには八方を囲むように山の木々が立ちふさがり、そこは人の生活とは無縁の閉ざされた自然であり、ここに一人で住むとなれば誰もが躊躇する

だろう。しかしそれでも浅見住職は僧として生きる道を選択した。三十四歳から二年間を京都にある臨済宗大本山の妙心寺で過ごし、厳しい修行を経て大陽寺を継ぐこととなった。

大陽寺に宿坊を作りたい。私が浅見住職からメールを頂いたのは、二〇〇六年八月のことだ。私もこの時はまだ、大陽寺がこんなに山奥にあるお寺だということは知らなかった。そして浅見住職の奮闘が始まる。

檀家や周りの反応は「こんな山奥に人が来るわけがない」と冷やかだった。江戸時代に建てられたお堂はぼろぼろで、道路も整備されていない。トイレやお風呂、台所の補修には、五百万円もの費用がかかってしまった。

簡易宿所営業の許可を取得することはできなかったが、サラリーマン時代の退職金やたくわえは、いつしか底をついた。ほとんど捨て身の行動により、宿坊・大陽寺がオープンする。

「最初に宿泊された方はよく覚えています。二十代の女性ですごく緊張しましたし、料理もコスト無視のVIP待遇。必死のおもてなしでしたね」とはいえ、宿坊を開いただけで宿泊客が泊まりに来るわけではない。初めの頃は土日でも宿泊者が一、二人しかいなかった。サラリーマンとしての安定を捨て、財産を使い切り、大陽寺の風景を守りたい。そんな一心で始めた宿坊が潰れてし

まうのか。浅見住職の苦闘は続く。

ただ宿坊研究会には早くから、宿泊者の感想が寄せられていた。その中の一つには、「ご住職はとても熱心な方で、みなさまに興味を持ってもらえるよういろいろな努力を日々積まれています」とあった。こうしたクチコミの影響力は大きく、二年目になると徐々に人が増えていく。宿坊のコアなファン層を中心に、興味を持ったお寺好きや企業研修、人生相談で来られる方など、宿泊者は多彩になっていく。宿坊を始めるまでは全く人の気配がなかった大陽寺で、今では多くの参拝者が仏様に手を合わせている。

開山の仏国師は、弟子たちから經典のある大きなお寺に行きましょうと誘われると、「ここには溪谷の声があり、小鳥のさえずりがある。こんなありがたい説法を聞きながら、他に何を学べと言うのか」と、それを断つたと伝えられている。

座禅も写経も、この自然の中で行われることに意義がある。仏国師の教えを守り、山々に包まれた心と向かい合う。大陽寺にリピーターが多いのは、そんな精神に感ずるものがあるからかもしれない。

人里離れた山寺。交通の便のない僻地。そうしたハンデが、逆に大陽寺を支えていくのだから面白い。もちろんその前提には、ハンデを乗り越えるだけのエネルギーが必要だ。何もなければ自分で作る。浅見住職はお寺の中に、自作の露天風呂すら作ってしまった。それは今や大陽寺の名物となっている。



江戸時代に建てられた大陽寺の本堂。宿坊としての客室も兼ねている。

今年の春に大陽寺から、一つの吉報が届いた。

浅見住職の電撃結婚。お相手は、約二十歳も年の離れた歩さんだ。宿坊研究会を見たことがきっかけで大陽寺に泊まり、宿坊のお手伝いなどを引き受けるうちに結ばれることになった。結婚式には私も駆けつけ、受付を引き受けさせてもらった。

女性の目線が入ったからなのか、最近大陽寺は綺麗になったとリピーターたちは口をそろえる。何よりも清潔感が増した。湿気が多い立地のため、布団は干しても干しても干してしまいが、日が差したときを狙ってこまめに布団を干し続ける。山の天気は変わりやすく、布団の数も大量にあるため、これは大変な重労働だ。

結婚する前はそれほど抵抗がなかったという山の上での生活だが、実際に始めてみるとやはり「大変なことだと思った」そうだ。

建立から二百五十年が経つ本堂は、掃除をしても掃除をしても埃がたまる。買い物に行くのにも山を降りるだけで三十分はかかる。もう少し大きな買い物しようとするれば、さらに街まで出なければならぬ。

そんな環境であるから「けんかをしても帰ることができない」と、歩さんは笑う。水道管が破裂する、土砂崩れで山を降りられなくなる、むき出しの自然は常にトラブルと背中合わせだが、それでも若奥さんは楽しそうだ。

次々と賑やかになっていく大陽寺コミュニティ。これからはどんなことを目指していくのか？ その問いに対する浅見住職の答えは「お寺」

お葬式」という凶式を変えたいという言葉だった。

お寺にとつて、お葬式は大切なものだ。しかしお寺は別れの場面だけに出てくる存在でよいのか。多くのお坊さんが感じている疑問だと思うが、浅見住職はそれを強く口にしていく。

お寺は出会いの場であり、人々の心を支える苦しみの受け皿でもある。がむしやらに走ってきた今、後付けではあるがそれが宿坊の役割ではないかと真摯に答えてくださった。

そして今、浅見住職はもっと多くのお寺に宿坊を開いてほしいと考えている。熱意のあるお寺があれば、いくらでも宿坊開設や運営のためのノウハウを伝えてもよいとのことだ。

各地のお寺が宿坊を開き、相互に連携しながらネットワークを築く。檀家とお寺の関係は地域によつては徐々に廃れつつあるが、「宿坊」を核としてお寺に興味を持つ人々と新たな関係を築くことはできる。それによつてお寺も息を吹き返す。

人が笑い、遊び、悩みを吐き出し、生活への活力とする。決して標準的ではないかもしれないが、一つのお寺の理想型が大陽寺には詰まっている。浅見住職の悩み、決意、行動力は、日本中の全てのお寺に覚悟を示してくれている。

大陽寺
 住所… 埼玉県秩父市大滝459
 電話… 0494540296
 交通… 秩父鉄道「三峰口駅」から車で25分
 (予約により車での送迎あり)
 宿泊… 一泊一食 八千五百円
 Web… <http://www.taiyoji.com/>



浅見住職の法話を聞く宿泊者

宿坊の客室

浅見宗達住職

並べられた精進料理

名物の手作り露天風呂

座禅体験



お寺が変われば私たちの未来は明るくなる

今回、宿坊研究会代表の堀内さんを編集長に招きたいと本人に打診したところ「フリストアをジャックさせて」との意気込み。一方、フリストアの代表池口は、せっかく編集長を委ねるならとことんやって欲しいとこれを快諾し、今号の発行に至りました。

ところで、両団体代表のそんな「阿吽」の呼吸の背後にあるものはなにか。「寺社コン」が好評を博している理由とは。池口がその真相に迫りました。

池口：「お葬式の時だけ仏教と付き合うのではなく、お寺を昔みたいに地域の中心に」という期待がよく寄せられます。お坊さんにとっても、お寺に来る人が少ないとやっぱり寂しいから、企画や広報に力を入れるのですが、必ずしも期待ほどの効果は上がっていない。そんな中で堀内さんが企画されている「寺社コン」（8ページ参照）は例外的に好評が続いています。

堀内：寺社コンは宿坊研究会での旅活動に必要な収益強化の面もありますが、もともと「一緒にお寺で熱くなれる仲間がほしくて始めたものです。最初の一年半は全部無料で、完全に私の持ち出しでしたしね。愛交ただ、私も最初はずっと二人で宿坊巡りを続けていたので、一緒に趣味を楽しめる友人がいないという声には共感できましたし、なかなか人が来ないというお寺の意見も耳に入ってきました。そこが良かったのかもしれませんね。

池口：私が思うに、堀内さんのその真摯な想いがあるから、寺社コンは成り立っているんですね。単なる収益目的の出逢い系イベントなら、たいていのお寺では門前払いになっているはず。お寺と企画者、そして参拝者の、お互いの大切なものを尊重しあうというスタンス——当たり前のことですが、お寺の文化的背景

や慣習などが伝わりにくい時代なので、積極的に溝を埋めていく作業が必要でしょうね。

堀内：フリストアはお坊さんだけの輪として固まらず、様々な分野で信頼できる専門家を味方に引き入れています。このようなチャレンジが、もっと多くのお寺に広がってほしいです。企業やクリエイターと手を組んだことで、町の小さなお寺に革命が起こった例を、私はたくさん見えています。お坊さん個々人が信念を持たずに人に頼ってしまうのは問題ですが、お寺の外にも積極的にゆだねることで見えてくる未来もあります。これからのお寺には「参拝者」にだけ開かれるのではなく、「運営者」にも開かれるお寺になってほしい。そのためにはぜひお寺の外にいる人も、もっと勇氣を持って付き合っていたらと考えています。

池口：今回は、堀内さんを信頼できたから本誌の「ジャック」にまで至ったわけですね。これからも、お坊さんたちが考え付かないような企画を期待しています。

堀内：ぜひ期待しててください。テレビに何度も出るようなカリスマ的なお坊さんがいなくても、普通のお坊さんの頑張りでできる「ミニニティ作りのケースモデルを、今後は増やしていくことが目標です。また、お寺と一緒に活動したいという企業からの相談もよくいただきますので、お寺と企業のマッチングの場も作っていきます。

お寺が新たな一歩を踏み出せば、地域の中心として、心の支えとして、仏教は今後も人々の心に根付いていくのではないのでしょうか。お寺が変わることで私たちの未来を明るくして欲しい——私はそう願っています。

フリースタイルな行者の 「精進生活」



毎年お正月に5日間の不断護摩行をさせていただいている。今年は正月から用事があるので、少し予定を早め、12月に行ずる事になっている。前にフリーペーパーの記事にいただいたが、この行の5日間は集中力と体力の維持、また用を足すことで中座しないで済むように断食をし、できるだけ睡眠や休憩の時間をはぶいて、護摩や勤行を勤めていく。

いつも「ストイックな苦行だね」「よく修行してますね」と、関心されてしまうが、行をすれば、自分が足りないことがよくわかるし、自分の弱さに情けなくなることもある。だからこそ、人より修行が必要と感じるのかもしれない。それにこれは苦行ではない。5日間ほどなら、やってみれば意外にできるものだし、フラフラになるような無理な苦行をしては、釈尊の中道の教えに反するとも思っている。それに、苦しいのを我慢して、集中力を欠くような状態では、まともな護摩行はできないに決まっている。それでも1ヶ月以上前から、節食をしたり、運動をしたりして、体をならしておくことは必要である。

何よりも5日間の休みを頂いて、行ができる私は恵まれている。なかなかそういうことがしたくてもできない人は沢山おられるのではないだろうか？この行は、私にとって非常にありがたい機会である。今回も本尊様にしっかりと向き合わせていただきたい。

次号は、この行がどうであったか？を書ければよいと思っている。でも、結願できるとは限らないのである。なむう〜なむう〜。

小野剛賢 昭和51年3月17日生 高野山真言宗 薬師院 副住職
<http://www.eonet.ne.jp/~yakushi/> 高野山真言宗・薬師院HP
<http://ajikan.blog.eonet.jp/default/> ブログ

阿字観で 寺社コン!

「阿字観は初めての方、いますか？」その質問に参加者の八割以上が手を挙げた。

薄暗い本堂に並んで坐った二十名の男女。年齢は三十代を中心に、二十代から四十代まで幅広く集まっている。

寺社コンは寺社好き男女の縁結び企画であり、お寺や神社の体験と懇親会がセットになっている。参加条件は①独身で彼氏、彼女がいないこと②まじめな出会いを意識していること③お寺・神社が好きであること。興味さえあれば知識は問わない。初めての方が気軽にお寺体験に親しめる場を作るという目的もあるのだから、阿字観デビューが多かったのはむしろ嬉しいことでもある。

出会いの場とはいえ、修行体験は真剣だ。皆が真面目な顔で指導をするお坊さんの説明を聞き、お経を読んで阿字観瞑想に入る。月の中に梵字が描かれた阿字観本尊の掛け軸。それを半眼でほんやりと目に映しながら、ゆっくりと呼吸を繰り返す。「アー……」……と声を吐き出しながら、静かに、静かに、心を静めていく。

「瞑想しているうちに、月と自分が重なった気がした」

「所作がいろいろとあり、大変だった」

「時間が短かったので、もう少しやってみたかった」

終わった後には多くの方が、初めての体験に声を弾ませた。中には「気持ちよくなり、ちよっとうとうとした」という不屈き者(?)もいたが。

また参加者には曹洞宗のお坊さんの姿もあった。「曹洞宗はモノクロームだが、真言宗はカラフルだ」という、お坊さんならではの意見も!

そして真面目な修行のあとは、お店に移動して懇親会で大盛り上がり。

「こんなにお寺の話ができるとは思わなかった」と興奮気味に話したTさんは、周りに同じ趣味の人がいなくていつも口をつぐんでいたのだという。

お坊さんとの結婚に興味があるというUさんは、参加されたお坊さんにお寺での生活について熱心に尋ねていた。

そして参加者の席をシャッフルしながら、あちらこちらと駆け回り回る主催の堀内さん。思いもかけずかかったステキな一言。

「堀内さんは話す言葉は理路整然としているのに、生き方はムチャばかりですね」……Hさん。それはちよっとうあんまりです。



11日 祈りの和 毎月 ～ろうそく2本のキャンドルナイト～

フリスタは、東日本大震災からの復興に向けて継続的に支援を続けていくため、「祈りの和」プロジェクトに参画します。

震災後、多くの人は被災地のために何か支援したいという気持ちが湧きあがりました。しかし、時間と共にその気持ちは心の奥底の深い部分へ沈んでいっています。被災地への想いは消えてしまっているわけではありません。被災地から遠くに住んでいる人達の多くは何をして良いのかわからないだけです。

「祈りの和」では、多くの方々に祈る場所と祈る方法を提供することを目的に考えています。ろうそくを2本立てると数字の「11」に見えます。毎月11日、皆様もご一緒に2本の祈りのともしびを灯し、1本は遠くで生活をされている方々の無事を、もう1本は自分の未来を願いたいと思います。

祈りと共に自分以外の誰かの幸せ、平和の大切さを考えるきっかけを作り、祈りを通して多くの人の輪(和)を作り上げていきます。

日時：毎月11日夜(時間未定)
会場：「祈りの和」参画寺院(募集中です!)
フリスタ京都オフィス・その他
ろうそくが灯せるところならどこでも

※詳細が決まり次第、以下に最新の情報を掲載いたします。
<http://www.facebook.com/inorinowa> (Facebook ページ「祈りの和」)
<http://twitter.com/#/inorinowa11> (Twitter / ハッシュタグ #inorinowa)
<http://www.freemonk.net/> (フリースタイルな僧侶たちホームページ)

12/18 1/21 休日の朝に坐禅を組んで すがすがしい1週間を迎えませんか? 朝一坐禅

街中のカフェで気軽に坐禅を組む新感覚イベント「朝一坐禅」杉若恵亮和尚を講師にお迎えしてお届けします。坐禅の後は朝粥をいただきます。カフェでお寺ながらのひとときをお楽しみください。

日時：2011年12月18日(日) 朝8:00～スタート
2012年1月21日(土) 朝8:00～スタート

場所：mocomococafe
京都市中京区間之町通丸太町下ル大津町 665
(烏丸丸太町を東へ進み1つ目の信号を「間之町通り」沿いに南へ下って2軒目)

参加費：1,000円(朝食代)
※食後の食器のしまい方についての作法も体験いたしますので、マイ茶碗、マイ味噌汁茶碗、マイ箸、マイ布巾をご持参ください。

定員：16名 ※要予約・先着順
(定員に達し次第 締め切らせて頂きます)

予約連絡先：mocomococafe@hotmail.co.jp



1/10 国際シンポジウム 火曜日 『これからの社会における仏教の可能性』

フリスタ・メンバーの熊谷誠慈さん(京都大学助教)が、1月10日(火)午後三時より京都大学において、ブータン仏教の国際シンポジウム『これからの社会における仏教の可能性』を開催します。同シンポジウムでは、ブータンと日本の研究者を招いて仏教文化についてご講演いただきます。また、池口龍法代表も講演いたします。ブータンと日本それぞれの仏教文化を知り、これからの社会において仏教が果たしうる役割について理解を深められるシンポジウムとしたい考えです。皆様方のご参加をお待ちしています。

詳細につきましては、京都大学次世代研究者育成センターまでお問い合わせ下さい。
Tel: 075-753-5315
E-mail: kumagai.seiji.3m@kyoto-u.ac.jp

1月 各日 お正月は3都市連続 寺社コン開催!

寺社好き男女の縁結び企画『寺社コン』は、1月7日(土)に東京で荏原七福神巡りコン、1月28日(土)に京都で勝林寺座禅コン、1月29日(日)に名古屋で大須散策コンを行います。

寺社体験に親しみながら、出会いにつながるこの企画。同じ趣味の人が集まりますので、初対面でも毎回とても話しやすい会になっています。過去には二週間で付き合うようになった方や、一ヶ月で結婚が決まった夫婦などもいて、カップル誕生率が高いのも特徴です。お寺が好きな方は、是非参加してみませんか?

【荏原七福神巡りコン(東京)】

日時：2012年1月7日(土)
集合：J R 京浜東北線「大井町駅」 11時00分
会費：3,000円。交通費、拝観料、その他、諸費用は各自別途、懇親会は4,000円前後必要

【勝林寺座禅コン(京都)】

日時：2012年1月28日(土)
集合：J R 奈良線「東福寺駅」 14時30分
会費：5,500円(座禅体験・勝林寺拝観料込み)
交通費、拝観料、その他、諸費用は各自別途、懇親会は4,000円前後必要

【大須散策コン(名古屋)】

日時：2012年1月29日(日)
集合：名古屋市営名城線「矢場駅」 13時00分
会費：4,000円。交通費、拝観料、その他、諸費用は各自別途、懇親会は4,000円前後必要。

お申し込み、お問い合わせ
寺社コン ホームページ (<http://jisyacon.com/>)

フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジンは

「仏教を通じて誰もが心安らかに生きられる社会づくりを」
それが、仏教に縁をいただきながら生きる私たちの願いです。

「お坊さん＝お葬式」というイメージが定着しています。しかし、仏教にいま求められているのは、お葬式だけのお寺とのつきあいではなく、先行きが見えず生きにくい社会を、心安らかに生きられる社会に変えて欲しいということではないでしょうか。

私たちは、その期待に応えるために、既成概念に固執することなく、日本仏教のあり方をフリースタイルに見つめ直していきます。

仏教を心のよりどころにして、いまを生きるということと一緒に考えてみませんか？

カフェでの座禅会（朝一座禅）、お寺で専門家と宇宙を語る集い（お寺で宇宙学）、仏教入門のためのトークライブ、年末には禊ぎの法会（仏名会）など、仏教を実際に体感できるイベントや法会も随時開催しています。気軽にご参加いただければ幸いです。詳細はホームページよりご確認ください。

私たちの活動よろしくお付き合いいただき、よろしければサポーターとしてご支援のほどお願いいたします。サポーターズ・クラブの詳細は本誌裏表紙をご覧ください。また、一緒にこれからの仏教のあり方を考える僧侶の方々や、デザイナーやコピーライターなど誌面作りに一緒に参加いただけるボランティアスタッフも随時募集しています。どうぞお気軽にお問い合わせくださいませ。

お問い合わせ先：tel: 075-555-5730
fax: 075-777-9579
info@freemonk.net



小川康『僕は日本でたったひとりのチベット医になった ヒマラヤの薬草が教えてくれたこと』
定価：1,900円＋税（径書房 2011年）

『人のつながりと学問の価値』

「知識・学問は一体何の役に立つのか」。西洋近代の薬学と伝統的なチベット医学の両者を修めた稀有な学者（東北大弓道部の主将を務めたスポーツマンでもある）は、29歳から10年もの歳月をかけ、亡命チベット人社会に身を挺してこの問いに挑んだ。確かに、現代社会が百年前とは比べものにならないほど便利になったのは、高度に専門化された知識のおかげだろう。しかし、そのせいで見えなくなってしまうものがあるのではないか。学問という営みの先にあるもの、それは人と人とのつながりなのではないか。そう思わせてくれる著者の筆致は、放たれた矢に似て、どこまでも真っ直ぐで清々しい。

（辻村優英）

編集後記

宿坊研究会 (http://syukubo.com/) は二〇〇〇年にオープンし、すでに千支二回りを数える寺社体験情報の総合ポータルサイトです。

もともとは名前の通り宿坊の宿泊レポートを紹介するサイトでしたが、「座禅や写経ができるお寺ってない?」「精進料理を食べてみたい」などの多くの要望を頂き、寺社体験ポータルとしての今の形に至りました。

その間、みんなで寺社巡りをしようと思ったサークル「宿坊散策会」は参加者が千人を越え、各地の宿坊が集まる宿坊サミットの開催や、寺社旅に関するトークライブ、海外への宿坊情報発信、寺社好き男女の縁結び企画「寺社コン」、カルチャーセンターでの講師活動など、お寺や神社を楽しむための情報発信・企画の製作に取り組み続けています。

おかげさまで十七万票を超えるユーザー投票をもとにした、All Aboutの『スーパードアーズサイト大賞』で審査員特別賞を受賞。閲覧数は月間六十万ページビューを数え、『宿坊に泊まる(小学館文庫)』『お寺に泊まろう(ブックマン社)』『恋に効く! えんむすびお守りと名所(山と溪谷社)』など、多くの本の執筆・制作にも携わることになりました。

そして今回「フリースタイルな僧侶たち」とのご縁から、本号の編集長としてお声がかかりました。ただこの編集長を引き受けるに当たっては、一つだけ条件をつけさせていたただいております。

それは「お坊さんと同じ立場からの仏教を伝える記事は作りませんよ」ということです。私はお坊さんではありません。一人のお寺好きであり、お寺の楽しさは伝えられても私自身は「仏教」を伝える立場にはありません。ですのでお寺に所属していない外部の者が抱いている、お坊さんに向けての期待をメッセージとして書かせてほしいと提案しました。

幸いにもある意味でフリースタイルの存在意義を引っくり返すこの方針に、フリースタイル編集部は快くご了承いただきました。そして無事に本号があなたの手元まで届いたことを、心より嬉しく思います。

お寺に対する世間の注目は、今後ますます高まっていくでしょう。しかしそれを受け入れる準備を怠つていけば、失望感からお寺離れ、仏教離れは加速していきます。それは「お寺を開こう」などというあいまいなキャッチコピーではなく、具体的な取り組みを各々のお寺で始めなければならぬところまで来ています。

お寺を活用したい。多くの人と寄り添い、寄り添われ、共に歩みたいと真剣に想われるお坊さんがいれば、私は労力を惜しみません。宿坊作りでも、坐禅会や写経会でも、寺社コンでも、企業との提携でも。もしも宿坊研究会の活動にご興味を持っていただければ、いつでも連絡 (holly@syukubo.com) まで) をお待ちしています。

また末筆となり恐縮ですが、本号を発行するに当たりご協力下さった大陽寺様、薬師院様、フリースタイル編集スタッフの皆様、ならびに私の寺社旅活動にいつでもお世話になっていた全ての皆様にお礼申し上げます。

(14号輪番編集長 宿坊研究会代表 堀内克彦)

読者のみなさまからのお便りを紹介!

フリースタイルではみなさまのお便りを募集、紹介しています。今回は封書で届いたお便りからのご紹介です。

娘もネルケ無方師の記事に感動したと申しております。
(この薄さが大変良いと思います!)
この町での暮らしております私は、普通ならこの御活動のことなど全く知らなかったと思います。新聞に掲載され、ご縁をいただけてよかったです。
次号、お送りいただけましたら、孫娘たちにも配ることが出来ますので、楽しみにお待ちしております
(T・Aさん・女性・東京都)

誌面に関するご意見、ご感想もお待ちしております。お気軽にお便りください。応募は郵送、FAX、電子メール、またWebサイトでも受け付けます。ご応募お待ちしております。

あて先：フリースタイルな僧侶たち 編集部
〒600-8119 京都市下京区河原町通
五条下ル本塩竈町 583-5
kawaramachi place 1002 号室
FAX : 075-777-9579
Email : info@freemonk.net
Web : http://freemonk.net

協賛のご報告

本誌発行にあたり、ご支援いただいた皆様には厚く御礼を申し上げます。以下に法人サポーターの方々のお名前のみ掲載させていただきます。

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 安心院 (京都府八幡市・浄土宗) | 瑞聖寺 (東京都港区) |
| 安楽寺 (京都府南丹市・浄土宗) | 崇福寺 (滋賀県甲賀市・浄土宗) |
| 石尾山弘法寺 (大阪府和泉市・真言宗) | 大圓寺 (東京都目黒区・天台宗) |
| 延命寺 (大阪府堺市・浄土宗) | 臺鏡寺 (大阪府枚方市・浄土宗) |
| 円融寺 (東京都目黒区・天台宗) | 檀王法林寺 (京都府京都市左京区・浄土宗) |
| 教伝寺 (京都府船井郡・浄土宗) | 潮音寺 (東京都大島町・浄土宗) |
| 窪之坊 (山梨県南巨摩郡) | 長壽院 (東京都台東区・浄土宗) |
| 九品寺 (京都府京都市南区・浄土宗) | 梅窓院 (東京都港区・浄土宗) |
| 光照院 (京都府京都市南区・浄土宗) | 宝泉寺 (愛知県津島市・浄土宗西山禅林寺派) |
| 光徳寺 (福岡県みやま市・浄土真宗本願寺派) | 法善寺 (大阪府大阪市・浄土宗) |
| 光明院・田中医院 (京都府京都市中京区・浄土宗西山禅林寺派) | 法然院 (京都府京都市左京区) |
| 光明寺 (滋賀県草津市・真宗興正派) | 法華寺 (京都府亀岡市・日蓮宗) |
| 西明寺 (兵庫県尼崎市・浄土宗) | 万行寺 (京都府京都市山科区) |
| 浄栄寺 (滋賀県東近江市・浄土宗) | 無量光寺 (鳥取県鳥取市・浄土宗) |
| 浄観寺 (滋賀県甲賀市・浄土宗) | 薬師院 (大阪府岸和田市・真言宗) |
| 浄元寺 (兵庫県尼崎市・浄土真宗本願寺派) | 龍光寺 (和歌山県海草郡・日蓮宗) |
| 性善院 (愛知県名古屋市中区・浄土宗) | 株式会社 薫寿堂 (兵庫県神戸市) |
| 正善寺 (兵庫県伊丹市・浄土宗) | 寺院コム (京都府京都市東山区) |
| 正法寺 (時宗・京都市東山区) | 浜屋 株式会社 (兵庫県姫路市) |
| 勝楽寺 (東京都町田市・浄土宗) | |
| 信覚寺 (福岡県朝倉郡・浄土真宗本願寺派) | |
| 心光院 (東京都港区・浄土宗) | |

※ 五十音順に表示しています。
※ 協賛は随時受け付けています。